

～『みらくる』研修を受講して～

恵庭市障がい者総合相談支援センター e-ふらっと 相談員 小谷寿恵

当法人は、昭和 55 年恵庭市に入所施設を開園以来、居宅、日中活動、就労、外出支援、相談支援など、地域の皆様のご理解、ご支援を受けながら障がい者福祉に纏わる総合的な支援を展開してきました。恵庭市の中でも最も多くの利用者、職員を抱えた社会福祉法人であり、障がい者福祉に携わることに喜びと誇りを持って取り組んできました。それぞれの現場で利用者やご家族の声を聴きながら、どうしたら皆様が望む生活を、夢を実現していけるのか、それを叶える為に専門性、チームワークを発揮して支援を行ってきました。

しかしながら、日々の実践の中で、いつしか困難を抱える利用者のニーズにどう応えていったら良いか悩み、利用者の問題行動や課題解決に取り組んでいく中で職員が疲弊したり、一人で抱え込んだり、いつものルーティンをこなしていただけになったり、問題行動にばかり目が行くようになる…肝心の利用者が置き去りになっていないだろうか、私たちの支援は利用者ひとりひとりのその人らしさを発揮できているだろうか…そんな現場の課題が見えてきました。今一度、法人理念に立ち返り、利用者が毎日充実し、その人らしさを発揮するために、そして日々喜びと誇りをもって職員が生き生きと支援を実践するためにどうしたら良いか、今一度専門性とチームワークを発揮できるよう、共通言語とスキルを磨き、誰が支援に携わっても同じように、その人らしさを大切に支援ができるツールはないだろうかと思案していたところ、北海道内でも発達障がい者支援に先駆的に取り組んでいる、社会福祉法人はるにれの里が作成している、支援をより効果的に進めていくためのモデルフォーマット『みらくる』を学ぶことができると知り、この研修を各事業所の垣根を越えて法人全体で受講することを決めました。

令和 3 年 11 月より全 5 回、各事業所より計 24 名の職員参加による研修を企画し、講師に札幌市自閉症・発達障がい支援センターおがるの坂井氏をお招きしました。『みらくる』は「4つのアセスメントシート」と「3つの計画」シートで成り立っており、各シートに「支援サイクル」に必要な考え方や要素が詰まっております。講師からアセスメントに関する考え方や『みらくる』活用にあたってのポイント、特性に合った環境づくりや関わり方等についてのレクチャーを受けた後、受講する現場職員から実際の事例を提供いただき、各シートを用いて必要なアセスメントをするためのニーズ整理、スキルチェック、余暇モチベーションアセスメントなどをチームで協議しながら支援計画を立て、実際に組み立てた支援計画やステップシートに基づいて利用者へ実践する、と言う座学と実践を織り交ぜた生きた実践教育を受けることができました。

約半年にわたってこの研修を受講している最中に、新型コロナウイルスが拡大、クラスター対応などが発生した為研修が中断、各現場で実践した結果、対象者にどのような反応や成果が見られたかは今後の実践の継続の中で検証していく事となり、本研修の成果や検証は道半ばであります。ただ、この研修を受講した最も大きな成果と言えることは、各事業所の垣根を越えて知恵を出し、意見を出し、利用者の夢とその人らしさを発揮して頂くために、私たち支援者は何ができるのかを真剣に話し合ったことによるチームワークの向上と個々の成長が見えたことです。新型コロナウイルスはいまだ終息が見えず、社会福祉法人の責務として感染対策と予防は今後も喫緊の課題となっております。本研修で培った専門性とチームワークにより、クラスター対応等、職員一丸で様々な困難を乗り越えようとしております。これからも大切な利用者がその人らしく地域で生活していくために、本研修で培ったチーム支援を発揮していけるよう、今後も私たちは『みらくる』を実践していきたいと思っております。